

(公社) いわき青年会議所 副理事長意見書

副理事長 田邊 英寿

1 ここ、いわきの地にJCが設立され50有余年、時代ごとの諸問題に向き合い、その解
2 決のために惜しみない努力と挑戦を繰り返してきました。そして今、少子高齢化を起因と
3 する諸問題に直面しています。私たちは、次世代により良い社会環境を引き継ぐために、
4 現代が抱える諸問題に目を向け、調査研究を繰り返しながら、未来を想像できる長期的視
5 点を持って、活気に溢れたまちを創り上げるための運動を進めていかなければなりません。
6 まずは、先入観や固定観念にとらわれることなく、正しく問題の解決方法を導き出すた
7 めに、現代が抱える諸問題の何が本質的な問題なのかを認識する必要があります。そして、
8 いわきJCとして取り組むべき課題を抽出し、継続的なアプローチをしていくための方法
9 を検討していかなければなりません。特にいわき市においては、若者世代の首都圏への人
10 口流出が、他の類似都市に比べて顕著であります。人口減少の流れに拍車をかけてしまう
11 この大きな課題に対し、子どもたちがこのまちに誇りとプライドを持つための機会を創出
12 していくことは極めて重要であると考えます。さらに、次世代の人財育成に目を向けた時、
13 私たちが東日本大震災の教訓で得た知識や経験をしっかりと伝えていくことも必要です。
14 東日本大震災を風化させず、心にとどめておくための運動をはじめとし、福島ブロック協
15 議会や各関係機関とも連携しながら、防災・減災の知識習得の機会を与えていかなければ
16 なりません。また、福島ブロック協議会の事業も会員の成長のための機会と捉え、常にそ
17 こから学ぶ姿勢と成長する気概を醸成させるために、連携強化に取り組んでまいります。
18 会員一人ひとりが、真摯に地域の問題に対して向き合い、今の「局面」を理解し、解決
19 策を見出す調査研究を行う事、そして地域の魅力を正しく知り、与えられた機会を最大限
20 有効活用して、発信し続けていくことで、活気に溢れた持続可能ないわきへと進化します。